

## 平成27年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

### [個人]

濱須 篤義	(福島県南相馬市)
杉山 幸	(徳島県三好市)

### [団体]

「緑いっぱい市民運動」世話人会	(北海道釧路市)
那須塩原市立東原小学校	(栃木県那須塩原市)
川場村	(群馬県利根郡川場村)
花の会・つるぎ	(石川県白山市)
高森町	(長野県下伊那郡高森町)
明光化成工業株式会社 明智工場	(岐阜県恵那市)
市立御前崎総合病院 花の会	(静岡県御前崎市)
乙川を美しくする会	(愛知県岡崎市)
三朝温泉かじか蛙保存研究会	(鳥取県東伯郡三朝町)
熊本市立帯山中学校	(熊本県熊本市)
実生の森実行委員会	(熊本県水俣市)

[個人]

---

はます あつよし  
濱須 篤義

---

福島県南相馬市

---

<功績の概要>

同氏は、地域緑化の重要性を認識し、先進的に緑化運動に取り組み、「ふるさとにケヤキの森をつくる会」や特定非営利法人「みどりと花の大地学園」を創設し、広域に植樹活動を展開した。これらの取組は広く認知され、市民参加型の緑化活動のモデルとなっている。

また、緑化のための教育、普及にも尽力し「みどりの学校」を創設した。卒業生は300人以上に及び、その多くが地域の森林づくりの担い手として活動している。

同氏は地域の歴史や文化遺産を後世に引き継ぐため、市民にその故事来歴を普及するとともに、ケヤキ、ミズバショウの植栽等による環境整備を行った。

さらに、地元の森林組合でも要職を務め、人材育成に力を注ぐとともに、全国に先駆けて地域のモデルとなる分収林経営を実践した。

これらの功績が広く認められ、同氏は緑化功労者農林水産大臣賞はじめ多くの賞を受賞し、現在も特定非営利法人「みどりと花の大地学園」の顧問として、緑化運動や普及、教育活動の指揮をとっている。

[個人]

---

すぎやま おさむ  
杉山 宰

---

徳島県三好市

---

<功績の概要>

同氏は、40年にわたる県職員(林業職)時代、一貫して林業普及指導の現場に携わってきた。自らも森林を購入し、森林整備に取り組む中で、「選木育林施業法」を発案した。

この方法を進めるため、「選木士認定制度」を創設し、約300名の「選木士」を養成し、選木育林施業は、県下で530haが実施されている。

退職後は、所有林(約26ha)の一部を「芸術育林」と命名し、見本林として開放し林内には「芸林荘」と名付けた現地研修所を構え、県内外からの視察や森林環境教育の受け入れ、研究機関の研究の場として提供している。

近年では、複層林へ誘導する長伐期非皆伐施業や、省力植栽方法などに取り組んでいる。特に、シカ被害対策として、植林木の周りにミツマタを植栽し、一定の効果を得たことから、平成26年からは、試験研究機関と連携し、本格的に取り組んでいる。

同氏は、「育林は希望が持てる 夢がある」と語っている。現在も、県内各地での育林指導や講演を行っている。また、地元森林組合や複数の林業研究グループの顧問を歴任し、後継者の育成を行っている。

今後も、人工美と自然美が調和した国土緑化に貢献することが期待できる。

[団 体]

---

「<sup>みどり</sup>緑いっぱい<sup>しみんうんどう</sup>市民運動<sup>せわにんかい</sup>」世話人会

---

所 在 地      北海道釧路市  
代 表 者      会長 <sup>はまき</sup>濱木 <sup>よしまさ</sup>義雅

---

<功績の概要>

同会は、昭和46年の設立以来、一貫して市民主導の緑化活動において中心的な役割を担うとともに、自治体が行う緑化推進事業等の施策の実施においても共催・協力を行っている。

市民植樹祭、花壇コンクール、園芸相談、公園花壇の植栽など、これまでの事業を積極的に継続する一方で、近年は、啓発事業に力を入れ、平成24年の国土交通大臣表彰以降は、市内各所で活動するサクラ守(現在5団体)の発足及び活動への支援を行い、特に北の桜に的を絞った都市景観形成を目指し、息の長い活動を積極的に行っている。また、関連事業として、剪定講習会、専門家を講師に招いた講演会、市民シンポジウムなどを実施している。

そのほか、平成25年には、北海道のフラワーマスターに認定されている市民からなる団体の設立において中心的役割を果たし、その後も、色彩講習会やアレンジ技術講習会を開催し、個人の技能の研鑽を支援するとともに、まちづくりにおける市民協働の推進に大きな役割を果たしている。

[団 体]

---

なすしおぼらしりつひがしはらしようがっこう  
那須塩原市立東原小学校

---

所 在 地 栃木県那須塩原市  
代 表 者 校長 かねこ 金子 かずえ 和恵

---

< 功績の概要 >

同校は、緑豊かな環境を活かした「フラワーガーデン活動」、「フラワーロード活動」、「ぼくの木・わたしの木」、さらに「校庭の落葉堆肥を使った農園活動」、「林内でのキノコ栽培体験」などの学習を学校教育に取り入れ、環境大臣表彰等を受けてきた。

しかし、平成23年の福島原発事故以降は、同校の従来の緑化活動は難しくなり、活動の縮小を余儀なくされたが、そのような中、教員とPTA役員は復興を模索するため、線量を測定した上での校庭の除染、垣根の剪定や学校周辺の暗い林の刈払、危険な低い枝の除去、フィールドアスレチックの補修などにより、児童が安心して校庭や学校周辺の林で活動できるよう環境整備を行うとともに、創立30周年式典における譲り合う心の醸成のための「ユズリハ」の植樹や、伐採株からのキリの萌芽を「再生」の教材にするなどの取組を行い復興への試みを続けている。

[団 体]

---

かわばむら  
川場村

---

所 在 地 群馬県利根郡川場村

代 表 者 村長

---

<功績の概要>

同村は稲作や養蚕を中心とした農業を基幹産業とした農村であったが、過疎化の進展に伴い、村人口が減少傾向になる中、恵まれた自然環境と農業を観光と組み合わせた村の活性化事業に積極的に取り組んできた。

昭和56年には東京都世田谷区との「区民健康村相互協力協定」を締結し、環境保全、教育、文化、産業、スポーツ交流等、幅広い交流事業を推進している。とりわけ友好の森を活用した森林保全活動である「やま(森林)づくり塾」では、森林作業体験や自然散策などを行う「体験教室」、世田谷区と川場村の子供たちが一緒に活動を行う「こどもやまづくり教室」、森林管理に必要な技術の習得を行う「養成教室」等、対象をきめ細かく分けて実施することで、幅広い層の活動参加に成功している。現在、年間800余名が森林整備の基礎技術習得や森林機能の学習を行うと共に、やま(森林)づくり活動を意欲的に行っている。また、養成教室修了者による自主活動団体「やまづくりクラブ」による村内の森林整備活動が行われる等、発展的な活動が随所に見られる。

このような活動は、都市と山村交流の先進的な事例として今後も更なる活動が期待される。

[団 体]

---

はな かい  
花の会・つるぎ

---

所 在 地 石川県白山市  
代 表 者 会長 おおはし けんぞう  
大橋 憲三

---

< 功績の概要 >

白山市(旧鶴来町<sup>つるぎまち</sup>)では、昭和40年代前半より、各地区の青年団や小学校において独自に花づくりを行ってきたが、平成元年、全町に花づくりが普及することを目的として、花いっぱい運動推進委員会を設立した。各地区に推進委員を委嘱し、「花づくりは人づくり 人づくりはまちづくり」をモットーに、国道沿いや公共の建物・広場などの花壇において組織的な花づくり活動が始動した。

昭和63年に林地区が公民館事業として国道157号沿いに花壇を設置後、平成3年の石川国体を機に町民参加となり花いっぱい運動のシンボルとなっている。毎年行われる国道花壇一斉定植時には、町民約200名が自主的に参加して、サルビア、カンナ、マリーゴールド等を定植している。現在、国道花壇「フラワーロード鶴来(R157)」は、毎年6月の第一日曜日は「国道花壇の一斉定植」、第三日曜日は「全町フラワーデー」として定着し、子供会、壮年会、老人会、町会や公民館、行政、企業など多くの市民ボランティアの方々の協力を得て実施している。

さらに、平成26年6月には、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市で同様の取組を行っている団体「フラワーロード陸前高田」を訪ね、白山市から持参した苗を協働で植えて花壇の再生に協力するなど、活動の幅を広げている。

[団 体]

---

た か も り ま ち  
高森町

---

所 在 地 長野県下伊那郡高森町

代 表 者 町長 くまがい もとひろ  
熊谷 元尋

---

<功績の概要>

同町は、町民憲章に規定している「自然を大切に豊かな緑と水のきれいな町」を積極的に推進している。

毎年開催している植樹祭には、町内の中学生約300名が参加し、これまでに約18haの山林に植樹を行っている。また、平成19年の町制施行50周年を記念するイベントでは、町民と共に町有地等に植樹を行った。

また、平成初頭から始まっている「花いっぱい運動」では、毎年約10,000本の花苗を無料で個人や団体に配布し、公共用地等に植栽を行っている。現在では、約20団体、約800名がこの運動に携わっており、地域緑化の推進に努めている。

さらに、子どもたちの取組においても、「出原みどりの少年団」が結成され、植樹祭への参加等、年間を通して活動しているほか、平成22年2月に開催した「たかもり★みらい議会(こども議会)」では、小学生議員の提案による「緑のまち高森宣言」が全会一致で採択された。加えて、平成25年5月からは町民有志が中心となり、ペチュニアの交配を通じて子どもたちに自然と生命の素晴らしさや不思議さを伝える「世界に一つだけの花をさかせよう！」の取組をスタートさせ、緑化思想の醸成に努めている。





[団 体]

---

しりつおまえざきそうごうびよういん はな かい  
市立御前崎総合病院 花の会

---

所 在 地 静岡県御前崎市  
代 表 者 代表 塚本 隆男  
つかもと たかお

---

<功績の概要>

同病院では、平成12年に職員の有志で「花の会」を結成し、荒れ放題になっていた2階の屋上テラス1,200㎡に、ナノハナやヒマワリ、コスモスなどの種を播き、花を咲かせ、季節を感じられる花畑に生まれ変わらせた。この結果、入院患者は花を見ることで笑顔を取り戻し、花を介して入院患者同士、病院スタッフ同士のコミュニケーションも良くなった。病院内が明るい雰囲気となり、気持ちが安らいだり和んだりする癒しのホスピタルとなった。

また、花畑による屋上緑化を導入した効果として、夏は断熱効果が、冬は保温効果があることを、花畑の真下とコンクリート部分の天井内温度を測定することにより実証した。これにより空調負荷の低減が図られ、二酸化炭素排出量の削減を実現し、地球温暖化防止にも貢献している。

また、花畑が満開になる時期には、少年少女合唱団や看護学生等による花畑コンサートを開催したり、患者や家族、近隣の人たちに花摘み体験を楽しんでもらったり、外来患者に花の無料プレゼントを行うなど地域住民をはじめ遠方からも多くの来訪者が訪れている。ボランティアとして活動する人も年々増え、地域のコミュニケーションにも貢献している。

[団 体]

---

おとがわ うつく かい  
乙川を美しくする会

---

所 在 地 愛知県岡崎市

代 表 者 会長 戸松 久

---

<功績の概要>

乙川は、竜泉寺川、山綱川など複数の河川と合流しながら岡崎市域を東から西へ横断し、矢作川に合流する一級河川である。岡崎市の水道水の40%強を取水しており、農業用水、工業用水としても市民にとって非常に重要な水源となっている。

同会は乙川の中流域及びその支流の住民によって構成され、草刈りや河川パトロール等の活動を恒常的に行っている。

同会による草刈りやごみ拾い等の美化活動は、1年間で合計40回以上行われており、河川美化のみならず参加者の環境美化意識の啓発にも大きな成果を上げている。

それらの地道な活動によって地域住民による乙川及びその支流の環境保全や親水性の向上が実現しており、また地元のホタル保存会や漁業協同組合の活動を側面から支援する体制が確立されている。

また、近年問題となっている流域の竹害についても積極的に取り組んでいる。具体的には、竹粉碎機を使って伐採した竹の処理を行う等、竹害に対する有効な対策方法を模索している。

[団 体]

---

み さ さ お ん せ ん                      が え る ほ ぞ ん け ん き ゅう か い  
三朝温泉かじか蛙保存研究会

---

所 在 地            鳥取県東伯郡三朝町

代 表 者            会長    もんぎ 門木    みつあき 光明

---

< 功績の概要 >

同研究会は、昭和54年に「かじか蛙の声を聞く会」として発足以来、かじか蛙の保護活動に加え、多くの生命を育む清流・三徳川を次世代に引き継ぐことを願い、河川や森林を守る活動に取り組み、水環境及び森林の保全に大きく貢献している。

活動の中でも、平成8年から現在まで19年間も続いている三徳川源流地域(中津、高橋、俵原)での広葉樹の植樹活動(延べ参加人員1,000人以上)は、かじか蛙の生息環境の整備のみならず、森林の公益的機能の一つである水源涵養等に大きく寄与している。

また、「かじか蛙サミット」(平成7年、参加者200名)や「森と川と海のフォーラム」(平成14年、参加者250名)を開催するなど県内外の参加者に対し、かじか蛙や清流を守る必要性及び自然生態系を守り育てることの大切さを訴え続けている。

さらに、平成4年以降、毎年夏には「かじかの声を聞く夕べ」を数回開催し、周辺の三朝温泉の宿泊者をはじめ、地元住民に自然の大切さを考える機会を提供し、水環境や自然生態系の保全への意識向上に貢献している。

[団 体]

---

くまもとしりつおびやまちゆうがっこう  
熊本市立帯山中学校

---

所在地 熊本県熊本市  
代表者 校長 なかそ てつや 中曾 哲也

---

<功績の概要>

同校は、平成17年に緑化10か年計画を立て、「人が環境をつくり、環境が人を育てる。」をテーマに学校内外の緑化活動を推進している。

具体的な取組として、パンジー、ビオラ、サクラソウなど10,000本の花で学校を飾り卒業生を送る「種苗1万本大作戦」、校地周りのフェンスを、ビオラ、ペチュニア等を植えたプランターで飾る「500mフラワーハンキングの設置」、温暖化・節電対策を考えた「グリーンカーテンの設置」、学校内外の樹木に花期や特徴を書いた樹木表札を取り付け、樹木に対する関心を高める「樹木表札500枚設置」、平成18年から、同校東側にある国道57号線沿いの花壇に生徒が花植えや水やりを行う「道守花壇の整備・管理」等を行っている。

さらに地域との連携では、毎年10月に同校と校区の青少年健全育成協議会とが共催で「中学生地域交流推進事業(さわやか推進事業)」を実施、今年で20回目を迎えた。これは、職場体験でお世話になった事業所等に花を植えたプランターを届け、校区を花いっぱいにしようという取組である。また、樹木の剪定や除草作業も行い、地域のボランティアの方々との交流の場にもなっている。

[団 体]

---

みしろう もりじつこういんかい  
実生の森実行委員会

---

所在地 熊本県水俣市  
代表者 実行委員長 かなざし じゆんべい  
金刺 潤 平

---

<功績の概要>

同委員会は、平成7年に結成され、水俣病という教訓とそこからの再生のシンボルとして、市民の手づくりで森づくりを進めることを目指し、市民ボランティアや国際ワークキャンプの協力を得ながら、実生の森づくりを行っている。

活動拠点のエコパーク水俣は、水俣病の原点として水俣病資料館や熊本県環境センター等の施設もあるため、実生の森を含め一帯が環境教育の拠点ともなっている。また、本地域の自然環境の中で成長の良い在来種のシイ類、カシ類、タブ類などの照葉樹の森を市民の手で保全育成している。

平成23年には、国際森林年に併せて、「もやい植樹祭」を開催し、約1,000本の樹木苗を補植するとともに、地域内の照葉樹林から採集した種子の苗づくりを行った。また、平成25年には、水俣条約外交会議のセレモニーとして、<sup>みしろうなえ</sup>実生苗の記念植樹を行っている。

環境学習や体験活動(マイ箸づくり、草木染め、ネイチャーゲーム、樹種当てクイズ等)、講演会等を行うなどの啓発を行っており、他にも水俣病患者による、実生の森で育った樹木の枝を使った祈りのこけしを手づくりするなどの活動を行っている。